



「心新たに更なる向上を」

校長 小寺 恵理子

皆様におかれましては、新しい年の始まりを健やかに迎えの心よりお喜び申し上げます。昨年は、本校の教育活動に対し温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本年も子供たちが元気に学校生活を送れるよう職員一同力を合わせて取り組んでまいります。今後とも本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



【書初めの練習風景】

年が明けて「あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。」とあいさつすると、「新しい年が来てめでたいなあ、心新たに頑張らなければ」と思うから不思議です。お正月には、新しい気持ちで「あけましておめでとうございます。」とあいさつを交わした子供たちも大勢いると思います。あいさつをすることは、自らの心を開き、相手を認めるということです。また、あいさつをすると相手とのコミュニケーションのきっかけにもなります。昔、江戸の土地には、日本全国からいろいろな文化的背景を持つ人たちが集まってきました。そこでは「江戸しぐさ」という心構えを通して異文化との共生を図ってきたそうです。良好な人間関係を築くためにできた「江戸しぐさ」には、あいさつや所作などについて様々なしきたりがあったそうです。例えば、あいさつについては

- ① 「おはよう」には「おはよう」、「おはようございます」には「おはようございます」といった同格の言葉で返す。
- ② 相手からあいさつをされたら、間髪を入れずこだまのように同格の言葉を返す。江戸時代にはあいさつを交わすのはただ気持ちが良いという単純な話ではなく、「私はあなたに敵意はありません」という気持ちの表れだとされていたからだそうです。
- ③ あいさつには、えがお（表情）、ことば（思いやり）、おじぎ（態度）の3つが揃ってこそ相手に心が届く。

とされていたそうです。本校では2学期に、言われて嬉しくなる「ふわふわことば」をみんなで考える取り組みを児童会中心に行いました。担任の日々の学級指導や授業を通して子供たちにはあいさつや言葉遣いについて働きかけをしています。1月9日（木）からはあいさつ運動も始まります。この機会を捉えて、ぜひ学校・家庭・地域が協力してあいさつができ温かな言葉をつかえる子供たちを育てていきたいと思ひます。

1月には教育相談週間の取り組みを行います。保護者の方との面談を通して情報交換や共有を図り、子供たちのよりよい成長に生かしていきたいと思ひます。保護者の方と情報共有を図り、学校での教育活動を通して、子供たちが豊かで幸福な人生を送れるよう教職員一同心新たに更なる向上を目指し、今後も指導に力を尽くしてまいります。